

47白門会に誌上参加！
会員からのお便り✍

☞お疲れ様です。夏は忙しく、なかなか時間がとれません。よろしく願います。
(山形県寒河江市・黒田忠司)

☞この夏は、北海道は、黒岳～白雲岳～トムラウシまで、大雪山を縦走します。
(埼玉県草加市・小野塚純二)

☞以前参加し、知り合いになった方もおられます。参加当時はそれなりに自由な時間もあったのですが、現在は、土・日は全く空きません。7月18日は地域8自治会合同の盆踊り、抜けられません。(東京都昭島市・山谷和幸)

☞6月10日に栃木の太平山に紫陽花を見にいってきました。山道を10km以上歩いたので、汗だくになり、途中でゆうゆうランドで温泉に入りさっぱりしました。
(さいたま市見沼区・北原健司)

☞愛犬ワットの突然の死。ペットロス状態になっています。自分を頼ってくれた愛らしい姿ばかりが思い出されます。今年の七夕の短冊は、ワットにもう一度逢いたい！と書きました。(東京都日野市・小池典子)

☞横浜ベイスターズの快進撃が交流戦で止まってしまった。せっかく盛り上がっていた横浜スタジアムの客足が止まらなければ良いが…。1998年以来の優勝はまだ希望があると思う。久し振りのパレードを見たい。(神奈川県藤沢市・根本史郎)

☞平塚市消費生活センターで相談員をしています。皆様も悪質商法に気をつけてください。特にインターネットのトラブルが増えています。(神奈川県平塚市・原園信夫)

☞まだ47会には入会していません。都合により入会は中止させていただきます(病気)。勝手を言って申し訳ありませんでした。(東京都西東京市・安西光昭)

☞退会届・御案内ありがとうございます。各会合等に出席できませんので今後、御案内等は不用です。47会の益々のご発展をお祈りします。(京都市府岡市・佐久間清治)

☞成田航空ビジネス専門学校に勤務しています。ご盛会を祈念いたします。
(千葉市中央区・長田正友)

☞5月より北海道小樽のにしん御殿「銀鱈荘」の仕事をを行っているため、月に数度、出張しています。(東京都国立市・阿部正行)

☞1000坪の畑を3人で借りていたんですが、一人抜け、一人が交通事故に遭い、今、一人で奮闘しています。(千葉県四街道市・高橋 績)

☞元気にしておりますが、仕事と地元での付き合いに追われて多忙です。
(群馬県高崎市・樋口由紀子)

☞民生委員とロータリークラブの活動に毎日忙しくしております。欠席ばかりで申し

7月18日(土)の総会に参加できなかった会員を中心に近況を披露します(出欠はがきの「通信欄」から。) 誌面の都合上、全員ではございません。悪しからず。(順不同、敬称略)

☞ありません。ご盛会を祈念しております。(東京都府中市・芝辻義治)

☞中大学員会の函館支部の役員もやっており、7月18日は、中大父母会函館支部の総会に出席しなければならず、申し訳ありません。余興の景品、また送ります。
(北海道函館市・平沼冠三)

☞いつもご連絡ありがとうございます。所用のため欠席させていただきます。
(東京都目黒区・大山高正)

☞独身の三男が富山に転勤。主人と掃除がてら行っています。北陸の観光もおかげで楽しんでいます。47白門会の幹事の皆様、本当にありがとうございます。
(東京都港区・小林公子)

☞元気にやっていますが、7月18日は夏祭りのため欠席します。よろしく。
(埼玉県飯能市・中里雅信)

☞未だ現役で頑張っていますが、年50回のゴルフは5年連続達成中！
(東京都港区・半田 貢)

☞参加できず残念です。同日、高校の同期の有志が震災以後初めて集まり、いわき市内で復興施設オープン間近で頑張っている仲間をけげまし、近況を交換します。皆様によろしく。(福島県いわき市・吉田祐徳)

☞今年も欠席で申し訳ありません。皆様のご健勝とご盛会をお祈りしております。
(神奈川県茅ヶ崎市・岸本哲二)

☞急にいろいろなことがあり過ぎて、時間が取れるようにはなりましたが、精神的に疲れがとれませんので。(栃木県宇都宮市・川口文恵)

☞退職し、生活リズムが今は少々混乱しております。残念至極ですが、今回、欠席します。今後ともよろしく。(静岡県伊東市・吉田俊)

☞以前から言っているように、4月と10月に開催するともっと集まるよ。1月と7月は季節柄良くないので、前例に呪縛されず、改正すべき。
(横浜市保土ヶ谷区・佐藤昌文)

☞皆様の活躍されている姿に元気づけられます。次回には参加したいですね!!
(福島県磐梯町・吉田長政)

☞「道途(かど)の歌」中央大学学生歌でユーチューブで検索(グーグル、ヤフー)。東大の「玉杯に花受けて」にも勝る名歌。1番で「生命力・活力」志高く」2番で「決意」「生命の躍動」「魂の躍動」「決起」3番で「不撓不屈」をうたいあげています。ご試聴あれ。(岐阜県大垣市・佐藤幸雄)

あなたの跡子は誰れ？一高生は誰れ？
初恋の思い出

恒例になった懇親会会場での会員へのアンケート。今回は待ちに待った(!?)「初恋」の思い出。広報担当の諸氏が会場を飛び回り、取材してくれました。小池典子さん、佐藤英一さん、飯島ミキ子さん、清水良英さんの方々です。取材、お疲れさまでした(2015年7月18日(土)総会会場にて)。(順不同)

高校で天文クラブに入部したら、そこに1年先輩のステキな女性がいた。名前は***という人。僕は高校時代、どちらかというと落ちこぼれに属していたけど、彼女に出会ったお陰で落ちこぼれることなく、楽しく過ごすことが出来た。来週、その天文部の同窓会があって、また彼女と会えそうなのでとても楽しみにしている。(匿名さん)

あなたの初恋の思い出は？と聞かれ、初恋は、人様に話すことではないですね。胸の奥にしまって置くものだと思います。だって、私の大切な人のことをハハアしゃべれば初恋では無くなってしまうような気がします。これが淡い初恋の思い出ではないでしょうか…。(法学部匿名さん)

私の初恋と聞かれて、どれが初恋だったのはわかりません。その方面は大変奥手だったようです。しいて言えば、今の主人か申しれませんが、おかげでいい伴侶に恵まれ、子供も3人授かりました。これから一生添い遂げたいと思います。変するハハハへ。(文学部匿名さん)

小学生のとき、後藤という先生が好きでした。先生の家によく遊びに行きました。とてもすてきな先生でした。
(来賓の46会半沢さん)

私の初恋は、幼稚園児の頃だったと思います。優しく、大きくてよく遊んでくれた遠い親戚のお兄ちゃんです。今でも、7/11として大活躍をしている素敵なお方です。でも、異性として初めて意識をしたのはそれから先のことです。でも、それはお話できません。だって、私の大切な思い出ですもの…。(文学部匿名さん)

高校のとき、同じクラスの人とフォークダンスを踊りました。その後、その人と手をつないで帰りました。嬉しくて3日間手を洗いませんでした。
(匿名さん)

中学校のとき、同じ学年のバスケットボールの選手にあひがれました。すごくやさしくて、すてきな人でした。
(関沢友子さん)

初恋の人は、小学校の同級生の***ちゃん。さっぱりした大柄な子だった。ある時、大きな同窓会があって、その時***ちゃんに「僕の初恋の人は君だよ」と告白したら、「そんな(大切)ことをそんなふうに(軽く)言うものじゃない」って叱られてしまった。その後の女性の好みとは全く違うから面白いものだ。
(匿名さん)

初恋といったら小学校1年生の時だけど、で中学年が上がる度に好きな子がいたな。みんな頭が良い子ばかり。でも一番思い出があるのは、5年生の時に僕のジャンパーのファスナーが壊れてしまって、それを直してくれた***さん。今の女房との共通点は全くなし。昔は頭の良い子が好きだったが、今は頭より性格のよい優しい人が好きだ。
(匿名さん)

初恋の人って聞かれたら幼稚園の先生だったなあ。佐々木先生。下の名前は忘れてしまった。とにかくきれいな先生だったな。僕の同級生のお姉さんだった。大人になって町内会で会ったけど、やっぱり相変わらず美しい人だったな。
(安井賢光さん)

私の初恋の思い出といえば、小学校の2年の事だったと思います。一緒に机を並べ勉強した人です。でも、2学期の初めに転校してしまいました。勉強は出来たようです(私よりかは…)。今、名前を思い出そうとしてもなかなか思い出せません。これが、私の初恋の思い出です。
(法学部匿名さん)

初恋といったら、幼稚園の西川先生というきれいな先生だった。学芸会で僕に主役の金太郎をさせてくれ、よく抱っこもしてくれた。でも、ときめくようなものは高校の1学年下の***さん。一緒にいるだけで何だか嬉しかった。帰りも同じ方向で彼女が先に下車した。多分相手も僕を嫌いではなかったと思う。その後は自然消滅になったが。
(匿名さん)

大学1年のとき、部活が同じ同級生と仲よくなりました。私の憧れていた人だったので、すごく嬉しかったけれど、お互いあまり上手には付き合えませんでした。卒業式の日に別れたままで、この春、部活の集まりで会えることになり、楽しみにして出かけました。でも、その人だけ当日欠席で、何と3日前に急死したとのこと。何だか青春が終わったようで、ちょっと寂しかったです。どんなおじいさんになってたのかなあ。怖くて写真見れませんでした。
(飯島ミキ子さん)

中大に通っている時に付き合っていた人がいた。でも別れてしまって、それから2,3年後に新宿でバッタリ！お互いに彼女と彼氏を連れての再会で、思わず相手を紹介し合ってしまった。
(小野塚純二さん)

小学校では乱暴な子が多かった。中学に入ってから隣の席に座った子はとても優しい子で、男の子にこんなに優しい子がいるのかと思ったものだ。その後は同じクラスになることも、話す機会もなかった。卒業後、みんなの話からその子は誰にもとても優しく接する子だったということ知った。今は獣医さんをしていると聞いたが、きっと動物たちにも優しく手を差し伸べていると思うと、懐かしさと共に、心がほっこりしてくる。
(小池典子さん)

私の初恋は小学校の確か2年生の事だったと思います。私より勉強ができたと思いますが、7/11一番ではなかったと思います。2学期のある日突然親の転勤で鹿児島に行ってしまいました。今では、名前すら思い出せません。初めて、異性として意識をしたのは、中学校に入ってからです。1年では同じ組、2年では部活も一緒でした。体育祭の時、7/11が7/11で手を握るのが恥ずかしかったことを、今でも鮮明に覚えています。勉強がよくできて、常に学年で5番までに入る秀才でした。大学を出て、今では歯医者をやっている人づくに聞きましたので、昔、彼女が住んでいた場所に行ってみました。今では、区画整理され昔の面影はどこにもありませんでした。私の初恋と一緒にどこか遠い処へ行ってしまったようです。私の初恋の思い出返して…。
(経済学部匿名さん)

第18回108会(ゴルフコンペ)

「秋の47ゴルフ会」は前日の雨があがり秋晴れの中、11月11日(水)大厚木カントリークラブ本コース東西チャンピオンコースで11人が参加しました。

★1組目：根本史郎、千種伸夫、山本昭夫、重田誠一

★2組目：百々立夫、高橋敏夫、富増和夫

★3組目：山本雅一、野本憲策、勝山達志、石見邦夫

穏やかな東コースといつもの西コースの鬼門に挑み、気合い充分で好スコアが期待されましたが、それぞれのゴルフで平凡なスコアで終わったようです。平均スコア109.9。優勝は49－48勝山さんと48－49山本(雅)さんが97の同スコアで優勝を分け合いました。(勝山さんはニアピン、ドラコンもGet！おめでとうございます。)また、108賞も56－53の109の同スコアで百々さんと重田が分け合いました。

帰る人のためにゴルフ場で軽く成績発表をし、一行は宴会宿泊会場に。飯山温泉元湯館では、阿部さんと郡山さんそして白戸由香プロと合流し表彰式と白戸プロのシニア賞金女王の祝を、そして芸者大学 体育の時間と語り合いで秋の夜長はあっという間に過ぎていきました。

白戸プロにお祝い金26,000円(13人×2,000円)と米3kgを渡しました。ご協力とたくさんの賞品提供ありがとうございました。(場外から吉田裕徳さん提供「いわき蒲鉾セット」は阿部さんが獲得しました。ありがとう！)(幹事：重田誠一)



47卒のみなさんへ 集まれ！この「フラッグ」のもとに

第24回ホームカミングデー創立130周年「輝く未来に向かって」が、10月25日(日)秋晴れの中、ここ中央大学多摩キャンパスにて開催された。今回は、創立130周年記念事業として、10時より「クレセントホール」にて式典を開催。開会宣言ののち式次第が進み、いつもなら「セントラルプラザ」にて、年次支部、地域支部、職場支部の旗が掲揚されるが、今回は、創立130周年記念事業の一環として当会場「クレセントホール」にて、行われた。「中央の絆」のもとに一斉に壇上を取り囲む様子は、さながら戦国時代の騎馬隊を彷彿とさせる見事な光景であり、中でもひと際目立つ我が「47の旗」。ここで、一連の式次第は無事時間通りに終了となる。

終了後、集合場所の「セントラルプラザ」に移動する。三々五々旧友が集まり、今回は16名の参加となる。在校生による次々に行われるイベントを見ながら昼間からのお酒、当日は暖かい日差しので酔いが回るのもいつもより早い感じがした。

第二の校歌と言われる「惜別の歌」の作曲者藤江英輔氏(1950年卒)が10月14日永眠された(享年90)。ここに、謹んで哀悼の意を込めて、お悔やみ申し上げます。藤江さんは「創立125周年を迎えて」のイベントでここ「多摩キャンパス」で、記念講演会を行いました。「惜別の歌」は我々の集まりでは、必ず、歌ってお開きになります。ここで、我が47支部の出番である。現在もパーソナリティとして活躍中の勝山達志(文)さんが壇上に飛び入り参加をし、この「惜別の歌」が作曲された当時のいきさつ、時代背景などをナレーション入りで解説、会場に集まった学友は年次を超えての「惜別の歌」の大合唱。今回参加された学員の皆さん方は記憶に残る一ページになったことでしょう。

さて、いよいよ最後のイベント。鬼が出るか蛇が出るか大抽選会の幕開です。過去に当たったことを思い出し、抽選会に参加するも誰も当たらず全員丸坊主である。「人間欲をかかず、無欲がいい」と、つくづく感じ、それぞれ帰途に着く。

最後に、私たちはこの多摩キャンパスでの学びの思い出はありませんが、キャンパスの風景・大学主催のイベントに参加することは、大変興味深いものであると感じ、これからも、体の動く限り参加したいと思う。来年も再来年も、この旗のもとでお会いしましょう。また、創立130周年記念行事に立ち会えたことに感謝をしたいと思う。
【佐藤英一(経)記】

